

【情報理工学部】2024（令和6）年度 学部教学マネジメント計画書

3つのポリシーに基づいた学修者本位の教育の実現に向けて、学部教学マネジメントに関する以下の観点について各学部で計画・実行・検証し、次年度以降の改善に繋げることとする。

1. 学部における教学マネジメントの組織体制

情報理工学部 教学マネジメント委員会

委員長：情報理工学部長

副委員長：副学部長

委員：教務委員、学部教務担当（2名）

2. 体系的かつ組織的な教育課程の編成・実施を支える各ツールの課題およびその改善に向けた今年度の取り組み

課題

①カリキュラムマップ

「専門知識・専門技能」の詳細内容（それぞれ3つずつに細分化している「資質・能力」の定義）を改めて見直し、必要に応じて修正を図る。その内容も含め、教学マネジメントの考え方を学部全体に浸透させ、授業レベルでの実質化と学生の理解に繋げる。

②シラバス

2025（令和7）年度の授業の実施方法に合わせたシラバスの改訂を進める必要がある。学部内である程度統一的な方針を定め、授業間でのばらつきによる学生の混乱が生じないように、留意する。

③その他（カリキュラムツリー、ナンバリング等）

科目ナンバリングについて、カリキュラムマップとの関連性や整合性、利活用の方法を検討する。コースごとのカリキュラムツリーの再確認も、検討課題の1つとして挙げられる。

今年度の取り組み

FD ワークショップ等で上記のような課題を取り上げ、議論を教員間で共有する。個別の議論を通して、学部の教学マネジメント方針が科目レベルで浸透するよう努める。実験科目や特別研究科目など、複数の教員で分担して担当する科目についても、その科目全体としての統一的な方針を揃えることに留意する。

3. 学修成果・教育成果の把握・可視化に向けた今年度の取り組み

課題

学習成果実感調査の回答率を向上させる。学修ポートフォリオの利用状況や、有意義な活用方法を検討する。

今年度の取り組み

学修ポートフォリオの情報を活用した修学指導や、教学 IR 情報の分析結果の共有と活用について検討する。

4. 授業科目の到達目標の達成状況および学生の資質・能力の修得状況から明らかになっている課題およびその改善に向けた今年度の取り組み

課題	
3 年次秋学期の特別研究Ⅰの研究室配属まで進んだ学生は、順調に卒業・進学・就職まで達成できるケースがほとんどである。一方、1 年次春学期での授業出席や単位修得、GPA などが振るわない学生が、その後留年や休学、中途退学に陥るパターンが多発することが、これまでの修学指導分析や教学 IR 情報からも明らかになっている。また、GPS-A の分析結果や、就職支援担当者の印象として、リーダーシップや協働力、自身の魅力や能力の高さに気づいていないことによる自己アピール不足などが、本学部生に共通する気質として指摘されている。	
今年度の取り組み	
入学当初の段階からの低出席や必須提出物への未対応の傾向の学生を早期に拾い出し、サポート方法を検討する取り組みを引き続き継続する。学生の主体的な対外発表や、学年を超えた縦の繋がり・協業を支援する体制の構築を試みる。	
アセスメントプランの取り組み	
アセスメント科目名	検証方法（在学時）
・ コンピュータ概論 ・ プログラミング演習 B ・ 情報理工学実験 A・B ・ プロジェクト演習 ・ 情報理工学特別研究Ⅱ A・Ⅱ B	☐ 外部アセスメントテスト（GPS アカデミック） ☐ 学習成果実感調査 ☐ GPA ☐ 在学生調査（在学生生活に関するアンケート） ☐ 単位取得状況 ☐ 成績評価
	検証方法（卒業時） ☐ 卒業研究・卒業論文 ☐ GPA ☐ 卒業時調査（4 年次生調査） ☐ 学位取得状況 ☐ 進学率 ☐ 就職率
取り組み内容（「8 つの資質・能力」の達成方法など）	
専門教育科目については、コース要件科目（選択必修）だけでなく、コース推奨科目（選択）の履修割合の向上も促す。また、学生の対外発表活動を促進し、その成果を分かりやすく広めるための事業を計画する。	
その他	

※この内容は 2024（令和 6）年度以降、本学における教学マネジメントの一環として、本学 HP への掲載を検討します。